

## 令和 2 年度学校経営計画

平成 30 年度～令和 2 年度

校番	12	学校名	広島県立福山葦陽高等学校	校長氏名	田 玄 和 司	全・ <input checked="" type="checkbox"/> ・通	<input checked="" type="checkbox"/> ・分
----	----	-----	--------------	------	---------	---	--

## 1 ミッション（地域社会における自校の使命）

備後の伝統校として地域から愛され、新しい時代をたくましく生き社会に貢献する人材を育成する。

## 2 ビジョン（使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像）

【目指す生徒像】 変化の激しい社会をたくましく生きるための社会人基礎力を身に付けた生徒  
 【自校の将来像】 一人ひとりの生徒を、教育活動相互の関りと生徒相互の関りの中で育てる学校  
 「強く」：自ら考え行動することで、人生を切り拓いていくことができる確かな学力と体力を育成する～「考え抜く力」  
 「正しく」：自ら律し他者と協働することで、地域や社会に貢献していくことができる態度を育成する ～「前に踏み出す力」  
 「美しく」：グローバル化する社会の中で、多様な人々とつながることができる姿勢を育成する ～「チームで働く力」

## 3 環境分析及びその対応

## ○進路状況の推移（％）

進路状況	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
	三修制	四修制	三修制	四修制	三修制	四修制
進学	100	14	100	53	88	8
就職	0	86	0	40	12	67
一時的な就労等	0	0	0	7	0	25
未定	0	0	0	0	0	0

## ○中途退学者数の推移

中途退学者数	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
1 年	8	4	2
2 年	1	0	3
3 年	0	3	1
4 年	1	0	1
合計	10	7	7

## ○就労率（％）

就労率	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
1 年	70.7	72.7	36.5
2 年	84.0	77.4	50.0
3 年	94.1	89.5	67.8
4 年	62.0	89.5	88.8
合計	77.7	80.3	60.8

・これまで、三修制を希望する生徒のほとんどが進学希望であった。しかし、昨年度は、進学希望を途中で断念してしまう生徒も複数名いた。三修制を選択する場合は、明確な進学希望があり、進学に対応できるだけの学力があることが前提となる。三修制と四修制のいずれを選択するにしても、早い段階での進路目標の設定にむけての支援が必要である。

・以前に比べて、退学者数は減少傾向にある。その多くが低学年時における退学であり、オリエンテーション段階での丁寧な個別指導と家庭との連携を一層推進していく必要がある。その中で、将来に対する目標と卒業への明確な意思を持たせることが大切である。また、中学段階での適切な進路選択に向けての情報提供と中高連携を進めていかななくてはならないと考えられる。

・就労率は、学年が上がるにしたがって徐々に増加している。学びと就労の両立が本校定時制の目指すところであり、生活リズム確立の観点からも、早期の就労が望ましい。適切な就労支援を行うためにも、生徒個々の実態を把握したうえで、ハローワークや就労支援機関等と連携をとりながら支援を行う必要がある。

# 令和2年度学校経営目標

## 4 目標の設定

学校経営目標						
達成目標	評価指標	実績値			目標値	担当部等
		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
1 考え抜く力の育成						
1) 基礎学力の定着を図る中で、学んだ知識を活用しながら主体的に問題を解決していく力	定期考査における基礎力定着問題の通過率(国・数・英)	新規	64%	57%	65%	教務部
	定期考査における活用問題の通過率(国・数・英)	新規	50%	50%	55%	教務部
2) 学んだことを自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、粘り強く学び続ける力	自己の将来を見据えた検定試験受検者数	8人	18人	8人	15人	教務部 進路指導部
	卒業年次の進路実現率	100%	94.7%	95%	100%	進路指導部
2 前に踏み出す力の育成						
3) 周りの人との関わり合いを通して、社会性を身に付け、自らの進路を切り開いていくことができる力	自ら進んで毎日挨拶をすることができる生徒の割合	新規	89%	83%	90%	生徒指導部
	前年度の問題行動の発生件数と比較した減少率	新規	-10%	7%	10%	生徒指導部
3 チームで働く力の育成						
4) 「体験的な学び」を通して、社会的な視野を広げるとともに、他者と協働して課題に取り組んでいくことができる力	学校行事に対する満足度(＋生徒の具体的な変容)	86%	84%	86%	90%	保健美化部
	「体験的な学び」を通して、社会的な視野が広がり、自己の成長につながったと感じる生徒の割合と生徒の感想に基づく生徒の変容	86%	100%	100%	90%	教務部 生徒指導部
	ボランティア活動等への参加率(校外清掃への参加を含む)	70%	62.3%	78%	80%	保健美化部 進路指導部
	ペットボトル回収やゴミの分別を通して、環境意識が高まった割合	—	—	—	新規	保健美化部 進路指導部
4 働き方改革						
5) 業務改善の取組を進め、職員の在校時間を縮減する。	職員の勤務時間外の平均(月)	36時間	22時間	24時間	24時間	校務運営会議
	業務改善の取組について、学校全体で取り組んでいる(肯定的評価)	58.3%	60%	60%	65%	校務運営会議

※正答または準正答であった場合、その設問を「通過」とし、通過した児童・生徒の割合をその集団についての通過率としている

## 5 行動計画

学校経営目標				
	達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
1 考え抜く力の育成				
	1) 基礎学力の定着を図る中で、学んだ知識を活用しながら主体的に問題を解決していく力	基礎・基本の定着を図る「反復学習」を取り入れる。また、授業の終末に「本時の振り返り」をさせることで知識・技能の定着を図る。	教職員は、学び直しと基礎・基本の定着を目的とした効果的な学習環境を整え、就職・進学に対応した学力を身に付けさせる。	教務部
		日々の授業内容と定期考査における活用問題との一体化を図る。日々の授業で学んできた基礎的な学習内容を活用し、思考・判断・表現させることができるような考査問題を工夫し出題する。	教職員は、生徒が主体的に課題発見・解決のために知識を活用し他者と協働して学ぶ姿勢が身に付く授業を実践する。	教務部
	2) 学んだことを自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、粘り強く学び続ける力	各検定の情報提供と指導を積極的に展開する。また、受検に向けた個への働きかけを更に行っていく。そして、受検希望者への個別指導及び不合格者への事後指導を教員間（教科担当及び担任等）で連携して行う。	授業で身に付けた力を活かし、各種検定試験に挑戦させ、自己のレベルアップを図らせる。そして、取得した資格を自己のキャリア形成につなげさせる。	教務部 進路指導部
		葦陽定時学びのスタイルの早期実現を目指し、学習と就労の両面から支援を工夫していく。低年次から担任・保護者・JST・公共職業安定所・就労支援機関等との連携を深めていく。また、面接指導を通して生徒の実態把握に努める。	面接、進路LHR、夏季進路指導、インターンシップ、成果発表、就労・合格体験発表などを計画する中で課題発見や計画力の醸成を促し進路実現に繋げる。	進路指導部
2 前に踏み出す力の育成				
	3) 周りの人との関わり合いを通して、社会性を身に付け、自らの進路を切り開いていくことができる力	日々の登下校時における声かけの指導や、日常的な教職員集団による声かけを通して、基本的なモラルやマナーを身に付けさせる。授業の始めと終わりの挨拶を含め、日々の挨拶によって社会性を育成する。	日々の挨拶を通じて、周囲の人々との関係性を構築させるとともに、社会性と協働性を身に付けさせる。	生徒指導部
		学校のルールを周知し、問題行動を未然に防止する。また、問題行動があった場合は、その問題点をしっかりと理解させ、再発がないように丁寧に指導する。	望ましい集団づくりのなかで、自己存在感を与える。	生徒指導部
3 チームで働く力の育成				
	4) 「体験的な学び」を通して、社会的な視野を広げるとともに、他者と協働して課題に取り組んでいくことができる力	PTAとも協力しながら生徒主体の生徒会行事を実施し、多くの生徒が行事に参加する中で、自己と他者を尊重する態度を育成する。行事後に生徒の感想を募り、生徒の変容をみるとともに、次の行事に反映する。	学校行事、生徒会行事、LHRに主体的に取り組む中で、お互いに協力し合う集団を育成できている。	保健美化部
		「地域人材による講演・講座」、「地域の文化施設を学びの場とする学習」及び「総合的な学習の時間・総合的な探求の時間」における体験的な学習を通して社会的な視野を広げるとともに、他者と協働して課題に取り組む態度を育成する。	地域の企業や学校における専門家と連携を図り、自己の役割を自覚させ、社会貢献の態度を育てる。	教務部 生徒指導部
		身の回りの整理整頓・毎月の清掃活動・校外清掃、ペットボトル回収・ゴミの分別等の取組を通して、自己有用感や環境意識の醸成を図り、他者と協働して課題に取り組んでいく姿勢を育成する。	生徒が協働的に清掃活動やゴミの分別に参加することで、社会的な視野を広げることができる。	保健美化部 進路指導部
4 働き方改革				
	5) 業務改善の取組を進め、職員の在校時間を縮減する。	・ 定時退校日の確実な実施を行う。 ・ 勤務時間管理システムを稼働させることで、勤務実態を把握し長時間勤務の改善につなげる。	勤務時間に対する意識改革を進め、業務改善につなげる。	校務運営会議
		・ 校務運営会議後の連絡会を機能化させ情報の共有化を図るとともに、教職員間における日常的な情報の共有化を一層推進する。	横のつながりを強め、協働的に課題に取り組むことで、業務改善を推進する。	校務運営会議